

第1回「文化の泉を掘る～三島町歴史文化基本構想について～」（8/8 開催） モニター参加者レポート

第1回「文化の泉を掘る～三島町歴史文化基本構想について」に参加して

林あゆ美

奥会津が好きで、「奥会津の周り方」という文字をみてすぐに参加希望したこのオープンディスカッション。参加を決めてからよく読むと「三島町歴史文化基本構想について」とあるのに気づきました。もしかして、行政の方向けの内容だったのではないかしらと一抹の不安がよぎりましたが、ライフミュージアムネットワークが主催しているものは以前も参加したことがあり、どれもおもしろかったので、大丈夫と自分を納得させ、雨の土曜日に車を走らせました。

主題である「三島町歴史文化基本構想」。平成20年に全国で20市町村がモデル市町村として選定され、地域における歴史的、文化的な資源の活用方針などを策定、文化財の調査研究や、地域に残る文化の価値について発信していくなどをするようになったそうです。そこで選ばれた三島町は、人口・面積ともに一番小さい町。

行政ってこういうこともしているんですね。一般市民は日常生活がとどこおりなく送られていけば、それが当たり前の日常であり、行政がどんなことをしているかについては、意識しないとわかりません。毎日忙しく過ぎていき、日本経済の長引く不況で働く環境は年々厳しくなっています。かくいう私も、興味はあったものの、日々の仕事でくたびれていて、ようやくこういうおもしろそうな場に参加できる気力をもてるようになったところです。お話を聞きながら、自分の知らないところで動いている地域にジンとききました。

三島町の矢澤町長は周りの職員の方達に「足元の泉を掘れ」とよく言われるそうです。だからなのでしょう。オープンディスカッションのタイトルも「文化の泉を掘る」。足元には泉がある、だから掘るのです。

三島町では歴史文化を掘り続け、そのひとつ荒屋敷遺跡に光をあてました。この遺跡については今回初めて知りました。まだまだ知らないことばかり。次に展示をみる機会があれば逃さないようにしなくてはとノートに荒屋敷遺跡をメモします。

文化の泉を掘ることは、次の世代である子どもたちにふるさとを残していくことにもつながるという話も出ました。総合学習で、虫供養などが子どもたちに伝わっていき、夏休みには工芸館で編み組をつくり、自然な形でふるさとの文化が継承されていくのはとても素敵だと思いました。子どもの頃の体験、思い出は、その後の人生の背骨になります。ふるさとの文化が自然な形で体が覚えていけば、離れてもふるさとに戻ってくる道が残され、お守りのような存在になりそうです。

オープンディスカッションは「オープン」の文字通り、矢澤町長と赤坂さんの対談のみならず、参加されていた昭和村の舟木村長や福島県文化財センター白河館まほろんの本間さん、西会津町の矢部さんらの話も聞くことができたのもおもしろかったです。

昭和村ではからむし織の織姫制度が27年目を迎え、120人程の織姫たちが3割程度、村

に定着していること。村のおじいちゃん、おばあちゃんたちの暮らしの達人ぶりを織姫たちがみな魅力に思っている話を聞きました。

まほろんの本間さんから、編み組の作業も、編む前の材料をそろえることが作業の7割を占める話があり、7割！とびっくりしました。参加者の方に、三島町の生活工芸アカデミーの生徒さんが、その「材料」に一番惹かれてアカデミー生になったと話をされ、「材料7割」がしっかり染みしました。

西会津の矢部さんの西会津町広報誌に掲載されている地域に伝わる伝説や民話、文化財の物語「にしあいつ物語 100選」を教えてもらい、帰宅して早速西会津町広報誌を検索し、拝読しました。物語として伝える文化、いいなあ。

権威主義の文化、上からこれが文化財だぞと押しつけられるものではなく、自分達がいいと思ったものを地域の文化にしていくこと、これを当たり前にしていきたいという心意気を、矢澤町長をはじめとしてどの方の話からも伝わってきました。

まずは自分の心が動かないと、大事にしたいという気持ちも生まれませんものね。

私は道産子なのですが、10代の頃に読んだ雑誌に只見のたもかくが紹介されていました。本好きだったので一読して「たもかく」にあこがれ、いつか行ってみたいと思っていたのですが、結婚で会津の土地に住み、我が子のひとは山村留学で只見において高校生活を送ることになるとは、当時の私には想像だにしませんでした。子ども時代に心が動いた土地に大人になって近づけるなんて、夢がかなったようで嬉しいです。只見のみならず、奥会津にずっと興味を持ちつづけているのも、子ども時代の延長なのかもしれません。

もうひとつ自分の話をすると、元福島県立博物館長の赤坂さんの著作が大好きで、県立博物館の館長に就任されたときは、生の赤坂さんを見ることができるとミーハーに喜びました。以来、講座などでお話を聞く度に、深い見識に心を動かされ続けています。館長を退かれ、もう直接話を聞く機会はめったにおとずれないのだろうかと思っていましたが、これからもまた機会がありそうです。赤坂さんの話からはいつも興味の種をまいてもらっています。その種が芽吹いて育ち、地域の泉にも気づかされている思いです。

次のオープンディスカッションの場所は柳津。楽しみです。